ゆう気を出して

上柴西小学校3年
ふく田　まい

わたしは、一年生になった時、おなじほいくえんだった、Bさんしかともだちがいませんでした。なかよしのともだちができるかふあんでした。でもつう学はんがいっしょの、女の子がいました。クラスもおなじでした。わたしは、その子となかよくなりたいと思いました。だからわたしは、

「なんて言う名前なの。」

と言いました。そうしたら、その子は、

「Aだよ。」

と、おしえてくれました。わたしは、じぶんの名前を言わなきゃと、思って、

「わたし、ふく田まいって言うの。おともだちになろうよ。」

と、ゆうきを出して言いました。Aちゃんは、

「うん。おともだちになろう。」

と言ってくれました。わたしは、とてもうれしかったです。Aちゃんとおともだちになったので、二人でよび名をつけあうことにしました。わたしがふくちゃんで、AちゃんがKちゃんです。わたしがおとうばんの時は、いつもKちゃんがわたしのきゅうしょくをはこんでくれたりしていました。でもわたしは、

「ありがとう。」

と、はずかしくって言えませんでした。でも、ゆう気を出して、

「ありがとう。」

と言いました。Kちゃんは、

「どういたしまして。」

と言いました。わたしは、「ありがとう。」とゆう気を出して言って、「どういたしまして。」と言われて、気もちよかったです。

わたしは「ありがとう。」と言うことばがおともだちをよろこばせてくれるんだと思います。かんしゃの気もちをしっかり言える人にわたしはなりたいです。

譲葉の賦

～桃井可堂伝～

⑦ 慷慨の士

江戸に着いた儀八は、出立前に安兵衛に言われたとおり、神田佐久間町の商家を訪ねた。

その商家の主は、儀八の名を聞いただけで何も言わずに客間に通してくれた。「中瀬河岸の斉藤屋さんから全て伺っております。何でもお玉ガ池の東条先生の下へ入門されるとか。いずれは近くにお住まいをご紹介いたしますが、まあこの江戸に慣れるまでの間は、手前の屋敷にご逗留ください。」儀八は初対面の主の言葉に困惑したが、やがて合点が行き、そのまん丸い目に涙をいっぱい溜めて唯々頭を下げた。

儀八の江戸遊学を最後まで反対し「もし江戸で成功することができれば、土下座してやる」とまで言ったあの安兵衛は、一度決めたら退かない儀八の性格を知り抜いていたのだ。最初に気持ちを打ち明けたあの日から、江戸での儀八の身の振り方を心配し、手配していてくれたに違いなかった。

翌日、儀八は神田お玉ガ池の瑶地塾に東条一堂を訪ねた。この東条一堂は弘前藩の藩校稽古館の督学となって弘前に赴いた後、江戸に戻りお玉が池に瑶地塾を開いた人物で、時の老中阿部正弘は政の諸事を諮問すべく彼を賓師として招いた。

この瑶地塾においても儀八は金井烏洲の紹介状のお陰で、すんなりと門下に加わることを許された。

江戸に出てから、儀八の身の回りのことは全てがトントン拍子に進んでいた。しかし、こうした周りの状況と相反するように儀八の気持ちは重く沈んでいた。

江戸の町は噂に違わず、殷賑を極め、お江戸八百八町の住人は太平の世を謳歌していた。

儀八はこうした江戸の風潮を見てこの国の行方を憂慮せずにはいられなかった。「近年、日本の近海には異国船が相次いで現れているという。異国がこの国を狙おうかという時に、幕府の役人は何をやっているのだ。」そんな想いが溢れ、まだまだ多感な二十一歳の儀八の心はやり場の無い怒りと、漠然とした不安に押し潰されそうであった。

時に西暦一八二四年、江戸幕府が異国船打払令を定め、対外強行路線に舵を切る一年前のことである。

督学…学事を監督する人

夢なかるべからず

心を育てる「語り手」でいたい

金子　京子さん

本の持つ心地良さ

静寂の中に心地よい声が響く。それはあたかも森の中で小鳥がさえずるような、自然な環境を作り出す。子どもを前にしての読み語りは、落ち着いた雰囲気こそが大切と考える。本という世界を通して、子どもとの触れ合いを求め、今年NPO法人を立ち上げた。

NPO法人「こどもとおはなしの家」代表　金子京子。皆のために何ができるのかを考えた一つの結論が、今、出つつある。

組織作りとNPO

自分の子どもに初めて読み語りをした時だった。絵本の面白さに、親子で時間を忘れて読み耽った。ゆっくりと子どもの様子を見ながら、ページをめくる。その時の子どもの目の輝きに魅せられた。

子どもばかりでなく、語り手も楽しみながら

平成13年から上柴東小学校で読み語りをするため、友人数人とボランティアを始めた。しかし、その後に始めたお話会や異世代交流ネットワーク作りなどを通じ、組織作りの重要性を実感した。

「大学で、NPO法人について勉強したい。」平成15年、娘の大学進学を機に、法政大学キャリアデザイン学科に入学する。

昨年、大学卒業と同時にNPO法人設立準備会を立ち上げ、今年、認証を受けた。

皆のために

きちんとした選書を行い、言葉を大切にした本を与えれば、子どもの心の糧となる。

しかし、読み語りの効果を学術的に立証したものは、これまで少なかった。それを確かめるために、来年4月から大学院で研究していくつもりでいる。小学1年生の20年を追い、語りと成長の関係を見つめ、実証していきたい。そして、これからの子どもに役立てたい。

金子の思いの原動力「皆のために何ができるのか」は、常に揺るぎない。

夢七訓
夢なき者は理想なし
理想なき者は信念なし
信念なき者は計画なし
計画なき者は実行なし
実行なき者は成果なし
成果なき者は幸福なし
ゆえに　幸福を求める者は
夢なかるべからず※

（本文中の敬称は本人の承諾を得て省略しています）

※渋澤栄一が残したとされる「夢七訓」より。「夢なかるべからず」は「夢を持たないといけません」という意味。